

(様式 3 - 2) 【学力向上フロンティアハイスクール用様式】

学 校 名：京都府立鳥羽高等学校
校 長 名：津守俊一
所 在 地：京都市南区西九条大国町 1 番地
電 話 番 号：075 - 672 - 6788
研究担当者：沼田雅夫

1 学校の概要

(1) 学校の特色

「人間性・先駆者精神・克己」の教育方針の下、京都第二中学校の継承校として伝統や校風を重んじ、礼儀及び規律正しい学校生活の確立と学力充実へのきめ細かな指導により個々の生徒の「生きる力」の育成と進路希望の実現を重点目標とする。海外帰国子女・中国帰国子女受入校としての経験をふまえ、国際理解教育を推進している。「文武両道」の精神が息づく中、部活動の生徒加入率は高く、全国大会で優秀な成績を収めている。

(2) 学校概要

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	364	9	354	9	350	9	354	9	1068	27
	計	364	9	354	9	350	9	354	9	1068	27
	計	364	9	354	9	350	9	354	9	1068	27
定時制	普通科	131	4	116	4	70	2	54	2	371	12
計		495	13	470	13	420	11	54	2	1439	39

(3) 学校の学習意欲・学力向上に関するこれまでの取組

1、2年生を対象とする英語・数学の習熟度別指導、少人数指導の実施。

年間8回の補充期間設定による補充授業の実施。

大学との連携による専門的な講座の開講。

総合的な学習の時間における企業や専門学校の協力を得た職業理解教育・職業体験教育の実施。

(4) 教育課題

本校においても生徒の学力や学習意欲の低下を懸念する状況にあるが、生徒の多くが進学を希望し、就職希望者にとっても厳しい現状の下、生徒の主体的な自己実現能力の向上を図っていかなければならない。そのために生徒に対する多様な学習機会を提供し、組織的な指導体制の充実を図りながら生徒の学力・人間力の育成を図る。

2 研究の概要

(1) 研究主題

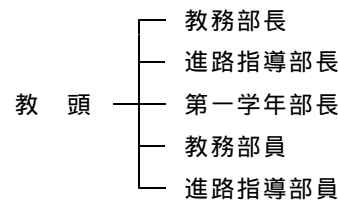
本校を取りまく地域事情や生徒の実態をふまえ、指導体制、指導の内容・方法について総合的に研究を推進し、生徒の学習意欲と学力の向上・生きる力の育成を図る。

(2) 研究のねらい

本校では、学力向上に向けてこれまで様々な取組を行ってきたが、それぞれが一つの目標に向けて組織化されておらず、効果・成果が不十分であることが懸案事項となっている。そのため新しい企画・工夫の追求とともにそれぞれの取組の整理・組織化、更には教員の意識向上を図りながら、生徒の実態に応じた指導形態の工夫、シラバスや成績データに基づいた効果的な指導法、学習上の興味・関心を喚起する社会人活用、職業意識・意欲の向上を図るインターンシップ等を通して着実な生徒の学力と学習意欲の向上を図っていく。

(3) 研究組織

* 学力向上フロンティアハイスクール推進会議



(4) 3年間の計画

平成15年度

高校生活に慣れ、学習スタイルをできるだけ早く高校の授業に合うものにするため、年度当初よりあらゆる機会を捉え集中的に指導を行う。年間を通して、学習習慣の確立と学習意欲の喚起となる取組の実践を行う。具体的には、シラバスの有効利用と日々の学習チェックなど個別指導による学習習慣の確立を図るとともに授業での理解度を高めるため補充・補習等を積極的・計画的に行い、知的好奇心旺盛な生徒及び乏しい生徒のための多様な講座を展開する。

平成16年度

学習の持続が難しい状況の克服方法を課題とする。したがって、年間を通して学習習慣の持続と進路目標設定による学習意欲の喚起および進路補習計画の検討を行う。具体的には、進路学習や大学体験等により進路目標を見定めつつ、「社会人講師の活用」や「高大連携」により生徒の知的好奇心を一層刺激し、学習に対する意識付けを幅広く行うことにより、学習習慣の定着を図り、進路目標達成のための学力向上に結びつけていく。

平成17年度

進路実現に向けた効果的な授業及び補習授業・外部講

師による特別講座・成績分析及び進路検討会議等の充実を図る。的確な情報提供と正しい現状認識・社会認識を生徒自身に持たせることにより、進路決定に関して生徒が主体的に関わり、短期のみならず、中・長期的な目的意識を明確にしながら進路に関わる正しい姿勢を育む。

3 本年度の取組

(1) 研究の実際

シラバスの作成による授業計画と到達目標の生徒への提示および年間を通じての有効活用

高校生活および学習方法等についての担任・教科担当者による研究実践と効果的ガイダンスの実施

「ファインシステム」「スタディーサポート」を活用し、生徒の目標達成に向けた学力向上・学習習慣と基礎学力の定着・進路意識の高揚に向けた担任及び教科担当者による授業・補習・進路指導・面談等の課題の把握と研究を行い、学力向上対策会議を開催する。

習熟度別指導・少人数講座における講座編成の工夫によるきめ細かい指導と学習習慣の確立

成績面での各層の実態に合わせた効果的指導の実践と担任・教科担当者による学力向上対策会議を開催する。

大学との連携及び社会人講師による特別講座の開設と活用の工夫

ア 高大連携特別講座『サイエンスとの対話』

(ア) 「化学」本校教諭とのチームティーチング(3回)

京都工芸繊維大学名誉教授 奥 彬氏

(イ) 「放射線と生命のしたたかさ」

京都大学教授 内海博司氏

(ウ) 「エネルギーとは」

京都大学名誉教授 新宮秀夫氏

(エ) 「教科書には書いてない化学の面白さ」

京都大学助教授 菅 誠治氏 (他3講座)

イ 鳥羽高校テーマ別特別講座

(ア) 幼児教育を志す生徒等を対象とした講座

・東寺保育園における保育実習

・うづら保育園園長 西川國代氏「保育園保育とは」

(イ) 語学に興味を持たせるための講座

・大阪大学教授 岡田伸夫氏「正確なコミュニケーションのために」

・京都外国語大学講師・ラジオパーソナリティ

佐藤弘樹氏「言葉の力ー英語と日本語」(他1講座)

インターンシップの実施

京都南ロータリークラブの協力の下での就職希望生徒を対象にした3～5日間の職業体験及び職業指導

参加生徒16名(男4・女12)実習企業7社(京都市6社・久御山町1社)実習内容(販売7・製造作業補助4・事務補助2・製品管理3)

補充・補習と授業との効果的な連携方法の工夫

成績面での各層の実態に合わせた効果的な指導の実践と担任・教科担当者による学力向上対策会議の開催

先進校視察

静岡県立磐田南高等学校・静岡県立掛川西高等学校・愛知県立豊田南高等学校・愛知県立安城東高等学校を視察する。学校環境・事情や生徒実態等、本校にとり実質的に参考となる学校を訪問し、学習指導・進路指導等の内容と工夫を研修し、実践上の資料として活用する。

(2) 教材、資料等の作成状況

「ファインシステム」及び「スタディーサポート」のデータを基にしたクラス・個人別実態及び課題

高大連携等の特別講座における講義資料を基にした生徒向け教材・資料

補充・補習授業における教材及び成果一覧等

先進校視察での研修を通して整理した報告資料

4 研究に対する評価

(1) 研究の成果

家庭学習時間の定着及び質の向上・学習意欲と学力の向上を目標に掲げたが、習熟度別指導・少人数講座の充実や補充・補習授業の組織的取組、担任による個別学習法指導、高大連携講座等を通して、数的に顕著ではないが、1年を経過する中で、成績上位層の躍進・下位層の学習意欲の向上と学習の習慣化等でその成果が徐々に現れ始めている。

(2) 問題点及び今後の課題

一定の成果が得られたものの、成績の各層に焦点を定めた取組の不十分さが否めない。学習の動機付けとして実施した各種特別講座は生徒全員への案内・指導をより計画的・積極的なものにしていかなければならず、補充・補習授業についても成績の中・下位層については指導をより緻密に展開させなければならない。習熟度別・少人数講座においては、大きな成果が得られたものの、その成果の数的整理ができなかった点や教員相互の授業点検や授業評価も重要課題である。

5 16年度以降の改善策

学習の動機付けや学習意欲の一層の向上に向けた特別講座については、課題を目的別に一層明確化していく必要がある。成績データの活用及び検討・対策も教科会議等で積極的に取り上げ、公開授業の実施による相互評価・外部評価をも行い、教員相互が切磋琢磨する中で生徒の確かな学力向上を図りたい。基礎学力の充実を図りながら学力の二極化を止めるための具体的方策も検討したい。インターンシップや企業人による職業指導を一層充実させ自己実現能力の育成に尽力したい。